

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	佐伯市 442054
地域名 (地域内農業集落名)	上堅田地区 (岸河内)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	29 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	29 ha
② 田の面積	27 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	2 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	21 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	1.2 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)遊休農地0.6ha	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

- ・個人農家が主体となり、水稻、いちご、ニラ等の栽培を行っている。
- ・農産品の価格低下、農業者の高齢化及び後継者不足から耕作放棄地が増加するとともに、農道や用排水路などの農業施設の維持補修が困難となっている。草刈りを地区だけではできない。
- ・野生鳥獣による、農作物の被害が水稻を中心に年々拡大している。
- ・圃場が狭く、水が少なく、耕作土も浅い地区であり、現状のままでは園芸品目等への転換は難しい状況である。
- ・井堰からの取水が難しい。水が行くにくい圃場一体の利用を考える。
- ・農業機械を個人ごとに所有している。今後、機械の故障が農業を辞めるきっかけになる。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- ・水稻、いちご、ニラを主要作物としつつ、農業を担う者を含めて栽培方法を確立する。
- ・地域の農業者、法人が耕作していく農地、新規に企業誘致(園芸品目等)する農地、今後検討していく農地に区分する。岸河内地区は、東九州自動車道に近い立地を活かし、積極的な企業誘致(園芸品目等)を行う。その結果、企業誘致した企業にUターン就職し、農業を継いでもらえるのが一番の理想である。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地バンクへの貸付けを進めつつ、地域の農業者、担い手(法人、企業誘致等)への農地の集積・集約化を基本としつつ、担い手の農作業に支障がない範囲で農業を担う者により農地利用を進める。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	20	%	将来の目標とする集積率
			52 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
農地中間管理事業を活用し、担い手を中心に農用地の集積・集約化を進める。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
一連の農地としてまとまりがあるため、地域の農業者、新たな担い手(法人、企業誘致等)への農地の集積・集約化を一層推進する。
(2)農地中間管理機構の活用方法
農地中間管理機構を活用を基本として集積・集約化を図る。
(3)基盤整備事業への取組
多面的機能支払交付金事業を活用し、計画的な水路や農道などの施設の長寿命化のための補修や更新に努める。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
保全組織、自治会、法人等と協力し地域の農地を守っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
現段階では活用を考えていない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

- ①鳥獣被害防止対策として防止柵の設置や捕獲を検討する。
③ドローンによる農薬散布を実施する。
⑦⑧保全組織を中心に農道や用排水路など農業用施設の適正な維持管理を行う。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	①	水稻、WCS用稲等	3.4 ha	- ha	水稻、WCS用稲等	3.4 ha	- ha	①	
認就	②	ニラ、野菜	0.4 ha	- ha	ニラ、野菜	0.4 ha	- ha	②	
認農	③	水稻、トルコギキョウ等	0.4 ha	- ha	水稻、トルコギキョウ等	0.4 ha	- ha	③	
認就	④	いちご	0.3 ha	- ha	いちご	0.3 ha	- ha	④	
認農	⑤	ニラ	0.2 ha	- ha	ニラ	0.2 ha	- ha	⑤	
認就	⑥	-	0 ha	- ha	ニラ	0.7 ha	- ha	⑥	
認就	⑦	-	0.5 ha	- ha	いちご	0.5 ha	- ha	⑦	
認就	⑧	-	0.5 ha	- ha	ニラ	0.5 ha	- ha	⑧	
認農	⑨	-	0 ha	- ha	ニラ	0.5 ha	- ha	⑨	
認就	⑩	-	0 ha	- ha	ニラ	0.5 ha	- ha	⑩	
認就	⑪	-	0 ha	- ha	ニラ	0.5 ha	- ha	⑪	
認就	⑫	-	0 ha	- ha	ニラ	0.5 ha	- ha	⑫	
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	9経営体		5.7 ha	0 ha		6.9 ha	0 ha		

- 注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。
- 2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。
- 3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。
- 4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。
- 5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。
注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有に当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。

目標地図（上堅田地区（岸河内地区））

